

## 特定の課題に関する調査(音楽)のポイント

### 音楽についての学力調査を実施

- 基礎的・基本的な知識, 感じ取って工夫する力, 音楽表現の技能, 鑑賞する力の実現状況を把握。
- リズムづくり(小学校)や歌唱(中学校)などの実技調査を実施。
- 全国規模の音楽科の学力調査は, 小学校では42年ぶり, 中学校では初めての実施。実技調査は初めての実施。
- 学習内容に関連した児童生徒の意識や, 教師の指導の実際等に関する質問紙調査も実施。
- ビデオやコンピュータを用いた映像や音声を伴う出題を工夫し, 児童生徒が興味をもって取り組めるようにすることなどに配慮。

#### 【調査の概要】

- 調査対象学年／小学校第6学年及び中学校第3学年
- 調査実施日／小学校 平成20年12月3日～平成21年2月27日  
中学校 平成20年10月1日～平成20年11月28日
- 調査実施学校数及び児童生徒数／全国の国公私立学校から無作為抽出。  
小学校:約110校約3,000人 中学校:約100校約3,000人
- 調査内容・調査方法／

	内容	調査Ⅰ	調査Ⅱ	質問紙
小学校	内容A	○調査Ⅰ(約3,000人) 用語や記号などの基礎的・基本的な知識を中心【ペーパーテスト(ビデオによる出題)】	○調査ⅡA(約1,000人) 感じ取って工夫する力及び音楽表現の技能を中心【ペーパーテスト及びリズムづくりなどの実技(コンピュータによる出題)】	学習内容に関連した児童の意識等
	内容B		○調査ⅡB(約2,000人) 鑑賞する力を中心【ペーパーテスト(ビデオによる出題)】	
中学校	内容A	○調査Ⅰ(約3,000人) 用語や記号などの基礎的・基本的な知識を中心【ペーパーテスト(ビデオによる出題)】	○調査ⅡA(約1,000人) 感じ取って工夫する力及び音楽表現の技能を中心【ペーパーテスト及び歌唱の実技(コンピュータによる出題)】	学習内容に関連した生徒の意識等
	内容B		○調査ⅡB(約2,000人) 鑑賞する力を中心【ペーパーテスト(ビデオによる出題)】	

#### 【出題における工夫・配慮】

- ビデオやコンピュータを用いて, 演奏の様子や, 教師と児童生徒の会話などの授業風景を視聴することによって, 親しみや興味をもって調査問題に取り組めるようにした。
- コンピュータによる出題では, 児童生徒一人一人がコンピュータとマイク付きヘッドホンを使用し, つくった音楽や歌唱を録音・再生するなどして, 確認をしたり試したりしながら取り組めるようにした。



《授業風景の視聴》

《バレエ・能等の視聴》

## 【主な調査結果】

### 【小学校】

#### 《用語や記号などに関する問題》

- 音楽を聴き、拍子(3拍子)を正しく選択したり、スラーとスタッカートの記号が正しく付された楽譜を選択したりした児童は約7割。音楽の長調・短調を選択する問題では、3曲すべて正しく選択した児童は約3割。

#### 指導改善

- 用語や記号の名称などを知ることだけではなく、児童が実感をもって用語や記号を理解できるように、それらと音楽の雰囲気とを結び付ける指導の工夫。

#### 《創作(音楽づくり)に関する問題》

- 変化させたリズムをつかった児童は約9割。変化させたリズムとその工夫の記述とが整合していた児童は約4割。

#### 指導改善

- 創作(音楽づくり)では、反復や変化などの構成を工夫する過程を大切に、思いや意図をもち、それを生かしてつくり出すことができるような指導の工夫。



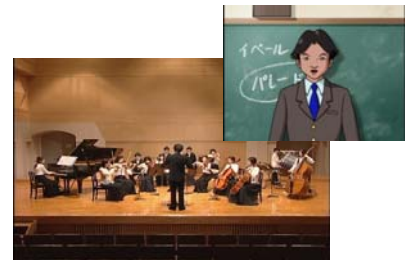
《リズムを和太鼓の音と共に唱えてみる》

#### 《鑑賞に関する問題》

- 4つの部分から成る音楽を聴き、どのような様子が表されているかについて約7割の児童が記述しているが、その音楽の強弱の変化をとらえて記述した児童は約2割。

#### 指導改善

- 音楽の要素(音色や強弱など)のうち、児童が感じ取りやすいものを取り上げて、その要素に自ら気付いたり、その要素と他の要素とのかかわり合いを聴き取ったりしながら、曲想の感じ取りを深めるような指導の工夫。



《ビデオによる楽曲の視聴》

### 【中学校】

#### 《用語や記号などに関する問題》

- 楽譜を見ながら音楽を聴き、強弱の変化記号を正しく選択した生徒は約8割、速度の変化記号を正しく選択した生徒は約4割など、音楽の用語や記号などに関する問題の正答率は約4～8割。

#### 指導改善

- 表現や鑑賞の活動を通して、楽譜に親しみ、用語や記号の意味や役割について理解できるように指導の工夫。

#### 《歌唱実技に関する問題》

- おおむね正しい音程で歌った生徒は約6割、おおむね正しいリズムで歌った生徒は約8割。また、豊かな表現で歌っていると認められる生徒は約6割だが、自分なりに歌で表したいことを考え、それを生かして歌っている生徒は約3割。
- 音程やリズムを正しく歌ったり、豊かな表現で歌ったりした生徒は、用語や記号などに関する問題で正答数が多い傾向が見られた。

#### 指導改善

- 音程やリズムなどを正しく歌うだけでなく、歌詞の内容、楽曲の構造(旋律や強弱などの要素やそれらのかかわり合い)などを基にして、表現したいことを考え、それらを生かして豊かな表現で歌うことができるような指導の工夫。

#### ★歌唱実技調査の流れ

- 新曲(平易な2部合唱曲)の歌詞や楽譜を見たり合唱を聴いたりしながら、上のパートや下のパートを歌唱する。
- 次の問題に取り組む。
  - ・ 歌詞の内容(情景や心情)を考える
  - ・ 上下のパートのかかわりを考える
  - ・ 歌詞の内容や上下のパートのかかわりなどから歌唱表現の工夫を考える
- 歌唱の練習をした後、前問までに考えてきたことを生かして歌う。  
[歌唱→録音を聴く→歌唱(採点対象)]



### 《鑑賞に関する問題》

- 音楽を聴いて紹介文を記述する問題では、気持ちや想像したことを約8割の生徒が記述しているが、音楽の要素を2つ挙げ、音楽の移り変わりに触れて具体的に記述するなどの条件を満たした生徒は約3割。

#### 指導改善

- 音楽を聴き、その要素が生み出す曲想の変化をとらえたり、音楽が醸し出す表情と生活経験を結び付けたりして、音楽を解釈し、味わいを深めるような指導の工夫。



《ビデオによる楽曲の視聴》

### 【質問紙調査】

- 音楽の学習が好きだ、大切だと回答した児童生徒は約7～8割。
- 音楽の学習は生活を明るく楽しく(豊かに)する、心を豊かにすると回答した児童生徒は約9割。
- ふだんの生活における音楽活動の中で、音楽の授業で学んだことを生かそうとしていると回答した児童生徒は約3～5割。

### 【小・中学校を通じた状況】

- 音楽を愛好する心情などに特にかかわる質問(「音楽の学習が好きですか。」など)に肯定的な回答をした児童生徒の方が、否定的な回答をした児童生徒より、ほとんどの問題で正答率が高かった。

#### 指導改善

- 音楽活動の楽しさや喜びを感じながら、授業で学んだことをふだんの生活における音楽活動の中に活かしていこうとする態度を養うよう、自ら取り組む意欲を高める授業の進め方や教材の選択・提示の仕方を工夫するなどし、音楽表現や鑑賞にかかわる諸能力をはぐくんでいく指導の工夫。

- 音楽を聴いて感じ取ったことや自分が考えた表現の工夫などを一定の条件に基づいて記述する問題では、小・中学校ともに正答率が低い傾向が見られた。

#### 指導改善

- 音楽の表現と鑑賞の学習を充実するために、音楽のよさや美しさ、表現の工夫を、音楽に関する言葉を用いて述べるなど、言語活動を適切に取り入れる指導の工夫。

- 自分が考えた表現の工夫と実際につくったリズムや歌唱実技とが整合していた児童生徒は、約3～4割。

#### 指導改善

- 音楽の要素やそれらの働きをとらえ、それを手掛かりにしながらか考・判断し、音楽を豊かに表現したり鑑賞を深めたりするような指導の工夫。

## 指導の改善のポイント

- 音楽活動の喜びを味わうとともに、生涯にわたって音楽に親しむ上で必要となる基礎的な能力を養うよう、音楽を形づくっている要素を手掛かりとしながらか考・判断し、音楽を豊かに表現する力や鑑賞を深める力を育成することが大切。

小学校: 旋律やリズムなどの要素を聴き取り、それらの働きを感じ取り、歌唱や楽器の演奏、音楽づくりにおいて創意工夫して表現したり、音楽のよさや面白さなどを感じ取りながら想像豊かに鑑賞したりする能力を育成することが大切。

中学校: 小学校の学習を基に、音楽の基礎的な能力を更に伸ばし、自らの考えを音楽で表現したり、要素の働きによる自分のイメージなどを意識し、音楽の背景にある文化や歴史などを理解しながら鑑賞したりする能力を育成することが大切。